

急性期成人看護学実習	4年・前期	3単位 135時間	教授 片貝智恵 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210684

1. 授業のねらい・概要

学生が看護を実践する能力を修得するために、実習病院で患者を受け持ち、看護過程を展開する能力を養うことを目的とする。

学生は、生命の危機状況や生命力の急激な変化が予測される対象と家族の特性ならびにその病態生理的、状況的、治療的関連因子を理解する。

学生は、生命の維持、苦痛の緩和、日常性の回復、生活機能の回復に向けて、対象の成長・発達、適応を促進させるための看護を実施する。

学生は、複数の患者を受け持ち、限定された時間内で看護の優先順位のアセスメントを実施する（統合実習1単位を兼ねる）。

学生は、手術室、集中治療室、一般病棟等対象の生活の場の変化あるいは健康レベルの変化に対応した看護の実践について理解する。

2. 到達目標

1. 対象を身体的、心理的、社会的側面および、病態生理的、状況的、治療的関連因子から総合的に述べることができる。(D-2)

2. 周手術期または急性期の患者の健康上の問題に対して、対象に応じた援助を計画、実施、評価できる。(D-2)

3. 複数の受け持ち患者の看護ケアの優先順位をアセスメントし、必要な看護を実践できる。(D-2)

4. 患者および家族との人間関係の成立と維持に必要な方法を習得できる。(D-2)

5. 保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任ある行動ができる。(D-1)

6. 保険医療チームの役割について述べるができる。(D-3)

7. 主体的にカンファレンスに参加できる。(D-2)

3. 授業の進め方

実習病院において学生は患者を受け持って実習を行う。

原則として、受け持ち患者は臨地実習指導者と教員の協議によって選定される。

教員と学生が話し合い、受け持つ患者を決定し、患者の同意を得られた後、看護過程を展開する。

展開した看護過程に沿って看護を実践・評価する。

アクティブ・ラーニング型科目（実習）である。

ICTは活用しない。

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習時間：3週間
2. 実習施設：済生会前橋病院
3. 実習内容：健康障害をもつ急性期・周手術期の患者1～2名を受け持ち、看護過程に沿った看護の展開および基礎看護技術を実践する。実習後半には複数患者を受け持ち、優先度を考慮した看護の展開および基礎看護技術を学習する。
4. その他：詳細は急性期成人看護学実習要項を参照のこと。
5. 担当教員：本吉美也子、片貝智恵、千木良悦子、石井みゆき、他

5. 成績評価の方法・基準

実習は4/5以上の出席が必要である。

実習全般（課題、実習への取り組み方、実習内容、実習記録）80%、知識評価筆記試験20%で、総合的に評価する。

ただし、実習全般と知識評価筆記試験は、それぞれ60%に達しないと単位認定できない。

成績評価は、「2.学修の到達目標」に示した評価観点ごとに、ルーブリック評価を基に、5段階評価で採点する。尚、ルーブリック評価に関する詳細は、オリエンテーション内で説明する。

知識評価筆記試験は、実習期間前または後に実施する。

知識評価筆記試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭または掲示で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：必要に応じて適宜指示するが、実習に関連する内容のものを、既購入済のテキストから各自選択し活用すること。

参考文献：必要に応じて適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

実習要項および授業計画をみて，関連するテキストや既習授業資料で学習して実習に臨むこと。
実習前に10時間以上の予習を行なうこと。

8. 受講上の留意事項

主体的，意欲的な実習態度が重要である。
実習中の私語や実習に関連しない行動は，実習全般として評価対象とする。

9. 課題に対するフィードバックの方法

指示した課題は教員が内容を確認して返却する。
課題の内容が不備であるものは再提出を求める。
実習全般に関することは，実習中に随時口頭で説明する。
知識評価試験終了後，口頭，掲示またはメールで説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，実習を行う。